飛行機から墜ちるまで

吉行エイスケ

新婚者と、女角力（ずもう）になったタルタン、彼女のために殺されてしまった花聟（はなむこ）、歓楽の夜の海を水自転車で彼にあたえた、妖婦タルタンの愚かな行動、水底深く死んだ花聟のダンデズム、影は水に映る。

水自転車、香港（ホンコン）、そこで彼女は仲居をしていた。

日本へ帰ると踊りの名手、華麗な売笑婦、タルタン。

ここは門司市、東川端の卑猥（ひわい）な街、カアルトン・バアの青い給仕人の花風病の体温、ロシア女の新らしい技術の中で無頼漢の唄う流行歌。

落つきを失った新聞記者のＹの見たマダム・ハヤミ

の地平線、吊ランプ下げた海峡の船が下関に着くと、僕はサンヨウ・ホテルの踊場にマダム・ハヤミを迎える。露台（バルコニ）でハヤミは僕を賞讃して、愛を誓ったのだが、翌日、ホテルの僕の部屋、ノックするとYが飛込んできた。

ハヤミのオオケストラ、彼（あ）の人糞。

――君！　マダム・ハヤミの奴、大理石の経帷子（きょうかたびら）きこんで昨夜晩（おそ）く神戸へ行ったぞ、おい、君。女の肉体讃美はよさないか。

――おい。×酒よこせ。僕のタンゴ踊、本場仕込みなのでハヤミは腹痛を起したのだ。Y、僕は粋な香港

に未練があるんだ。

　空しく、僕は欧洲行の船を棄てて、マダム・ハヤミを追って神戸行急行列車に乗り込んだ。

——おい、君。マダム・ハヤミ、俺も恋していた。彼女の×××送ってよこせ。

——NACH KOBES　×××万歳！

下関駅を列車は離れた。Ｙが汚れたハンカチを振っている。

　数時間後、僕は岡山で下車すると、巡業中の歌劇団のポスターを横眼で見ながら、車を硝子（ガラス）張りの、「金髪バー」の前でとめて、酒杯の中に沈んで行った。する

と、肥満した女主人が僕に惚れて煩悶(はんもん)しだした。
頭のよくない調合人は、混合酒の控帳めくっている。
××開始、ウェートレスの英国の少女、メリーをからかってしたたか膝を折られ泣面をしている男。だが、メリーは僕を見ると恋愛相談所「＃「恋愛相談所」は枠囲み」めがけて夢中に走り出した。
――いらっしゃい。妾の主人は、非度(ひど)いラヴ・レタの蛇なのです。恋愛過度、チタでレオ・トルストイに小説を書く方法を三万ルーブルも仕払って教ったのですが、いまの世の中で何んの役に立つものですか……
…。

壁にはルノアールの偽(にせ)もの蜿蜒(えんえん)の画がかかっていた。

しかし僕は内緒で、片隅の赤髪の女に色眼をつかった。彼女は巨大で腿(もも)のあたりは猶太(ユダヤ)女の輪廓をもって、皮膚は荒れて赤らんで堅固な体軀をしていた。

——君の名は？　と、僕が色欲のダリアに向って聞いた。

——妾(わたし)、貴男の情婦、夜のボップよ。

すると忽(たちま)ち女は死物狂い、僕に倒れかかった。

僕とボップ、裏街の夜、アアク燈、柳暗花明の巷(ちまた)を駈け抜けると、古寺院の境内、数時間、僕はだまって経過した。

――ロップ、一時は駄じゃれで君をメキシコ湾だと云ったが、僕の純情知ってくれたか。

辻自動車が疾走する、満月、天主閣、車が湖畔を疾走するとき、再びロップは僕に傾倒した。

A・A橋の下で、ボートに乗って夜の河岸を離れて、ロップは、カルメンの五章を唄いながら櫂（かい）を水に落した。

　いくら、お前が云い寄っても、駄目よ。

　トララ　トララ　トララ　トララ

　緑色のイルミネエション、青い眼鏡に穴をあけながら、水の上を進んで行く。

奔流、ごろつきのような波の音が僕に英国少女メリーの靴の踵（かかと）と、乳房に鬘（かつら）をかむったような女主人を思い出させた。

そのときロップが僕に云った。

——ねえ、二人でクラブへ行きましょう。スペイン式の女学生がいるわ、シャンパン飲まして欲しいの……。

——ロップ、紙幣と品行方正の匂いがする。

——よう！

——醜婦奴（しゅうふめ）、ガウンが百度ひらいたって、糞（くそ）。

——………………

クラブの化粧室に這入ると、ロップは××になって仰向けのまま寝てしまった。僕は浴場で屢々(しばしば)、結婚の感触を衝(う)けた。そのたびに手術室に逃げこんでいさぎよく離婚してしまった。

僕が客間(サルーン)へ出ると、人々は足角力(ずもう)の競技に耽(ふけ)っていた。踊場では跛(びっこ)の老夫婦が人形を抱いて踊っていた。食堂では角帽の中学生が恋人の女学生の話しをしている。また僕は、卓子(テーブル)の一隅で蛙を食べている知合(しりあい)の旅

女優、彼女は僕を見そめると、やってきて僕に囁いた。
——本当よ！　妾のテノアは東京へ逃げてしまったんです。彼は皮膚病だったんです。妾も、歌劇団を抜け出すつもりなんです。マネエジャ達は妾の唇についての居心地がよくないと云うんです。妾は好色家の妻にだってなるんです。連れて逃げてください。
あまりに、熱心に僕が彼女と恋の投機に夢中なので中学生たちが冷かすのだった。
無線電信——六〇六——石碑——W.C
——じゃ、間違いっこなし、明朝、練兵場よ。（哲学よ、信頼してもよくって？）

僕は帽子をとりに化粧室に引返す。すると僕はそこにロップの粗悪な寝顔を見て、廻れ右をすると、彼女の腹部に片足で立上って、そのまま躊躇（ちゅうちょ）なく外へ飛び出した。

午前八時岡山練兵場出発——F飛行士は、彼は昔、自転車周回競争の選手だった。上海（シャンハイ）に挙行された東邦大会の選手権把持者——だが、女優のNは艶（なま）めかしい嘔吐（おうと）を空中に吐いた。

——妾、恐ろしい！

F飛行士は、女客のため屢々（しばしば）、墜落しようとする。

彼の強気な毛むじゃらの足は、縁日で買ったような両翼を修繕しては、飛行を継続する。そのたびにはら〱して女優の美貌から脂粉（しふん）がはげおちた。海原、離宮、車輛、工場のテニスコート、僕が彼女の乳房のあたりを見つめているうちに、八時四十分、大阪着。

　僕が眼を覚ますと、陽気で騒がしい支那人の鼻歌が聞えてくる。僕たちは墜落したらしい。そのまま李鄭（りてい）の部屋で前後不覚になってしまっていたのではないだろうか？

あれも贋(にせ)ものの飛行機だったろうか——李鄭の後から僕は広間へついてあらわれると、僕は忽ち、無数の支那服の女に交ってチイク・ダンスを踊るタルタンの素足の踊姿を認めたんです。

底本：「吉行エイスケ作品集」文園社
１９９７（平成９）年７月10日初版発行
１９９７（平成９）年７月18日第２刷発行
底本の親本：「吉行エイスケ作品集　Ⅱ　飛行機から墜ちるまで」冬樹社
１９７７（昭和52）年11月30日第１刷発行
※底本には「吉行エイスケの作品はすべて旧字旧仮名で発表されているが、新字新仮名に改めて刻んだ。このさい次の語句を、平仮名表記に改め、難読文字にルビを付した。『し乍ら→しながら』『亦→また』『尚→なお』『儘→まま』『…の様→…のよう』『…する側→…す

るかたわら』『流石↓さすが』。また×印等は当時の検閲、あるいは著者自身による伏字である。」との注記がある。

入力：霊鷲類子、　宮脇叔恵
校正：大野晋
２０００年６月７日公開
２００９年３月22日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんで

す。